

- 問1 千葉県最大級の前方後円墳である内裏塚古墳が築造された古墳時代の中期には、大陸との交流を通じて新しい製作技術が導入されました。この時期に生産が始まった「須恵器」の特徴を説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 青銅を原料として鑄造され、祭祀の道具として用いられた釣鐘型の道具 | 2. 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器 | 3. 表面に魔除けの意味を持つ縄目の文様をつけた、厚手で黒褐色の土器 | 4. 弥生土器の流れを汲み、野焼きによって比較的低温で焼かれた赤褐色の土器 |
|-------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
- 問2 5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれているとされる遺物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|---------------|-------------------|----------------------|
| 1. 近畿地方で多く見つかった銅鐸 | 2. 装飾が施された石包丁 | 3. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀 | 4. 漢の皇帝から授けられたとされる金印 |
|-------------------|---------------|-------------------|----------------------|
- 問3 5世紀の朝鮮半島の情勢において、北部に位置する強大な高句麗が南下政策を進める中、倭（日本）と活発に交流を持ち、共同の利害関係にあった朝鮮半島南部の国々の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|----------|--------|---------|
| 1. 百済・新羅 | 2. 高麗・渤海 | 3. 唐・宋 | 4. 隋・契丹 |
|----------|----------|--------|---------|
- 問4 古墳時代のヤマト政権における、大王と豪族の関係性や政治の仕組みについて述べたものとして、正しいものはどれですか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|--|---|
| 1. 大王はすべての豪族を武力で排除し、対等な関係を持つ勢力が存在しない独裁体制を築いた。 | 2. 大王は、有力な豪族たちと連合し、彼らを従えることで政権を運営した。 | 3. 大王は宗教的な権威のみを持ち、実際の政治や軍事の権限はすべて豪族が握っていた。 | 4. 大王は中国の皇帝から派遣された官僚であり、豪族の意見を聞かずに政治を行った。 |
|---|--------------------------------------|--|---|
- 問5 古代、朝鮮半島や中国大陆から日本列島へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々は、仏教とともに漢字を日本へ伝えました。この、大陸から移住して日本列島の文化や政治に大きな影響を与えた人々を何と呼びますか。 (2026年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1. 渡来人 | 2. 御家人 | 3. 遣隋使 | 4. 防人 |
|--------|--------|--------|-------|
- 問6 「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--------------------------------------|---|---|
| 1. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報収集した | 2. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した | 3. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた | 4. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した |
|--|--------------------------------------|---|---|
- 問7 埼玉県の稲荷山古墳から見つかった「ワカタケル大王」の銘文がある鉄剣と、熊本県の江田船山古墳から見つかった同様の銘文がある鉄刀は、5世紀後半の日本列島の政治状況についてどのようなことを物語っていますか。最も適切な説明を選んでください。 (2016年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 日本列島は各地の豪族によって完全に分割統治されており、中央集権的な組織は存在しなかったこと | 2. 関東地方と九州地方の有力な豪族が連合し、近畿地方のヤマト政権と対立していたこと | 3. 大陸との交易はすべて関東地方の豪族が独占しており、鉄器の製造技術を独占していたこと | 4. ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと |
|--|--|--|---|
- 問8 5世紀頃、大陸から日本へ移住した人々によって伝えられた技術のうち、それまでの赤褐色の土器とは異なり、穴窯を用いて高温で焼かれた硬い灰色の土器を何と呼びますか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 須恵器 | 2. 弥生土器 | 3. 縄文土器 | 4. 土師器 |
|--------|---------|---------|--------|
- 問9 5世紀ごろ、現在の大阪府や奈良県を中心とした勢力であるヤマト王権が、九州から関東地方に至る広い範囲に影響力を及ぼしていたことが、各地の出土品から判明しています。埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト王権の首長を指すどのような称号が刻まれていましたか。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 執権 | 2. 將軍 | 3. 大王 | 4. 天皇 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問10 大仙古墳に代表されるような、非常に広大な面積を占める巨大な前方後円墳が、5世紀ごろの近畿地方を中心に築かれた歴史的な背景を述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. ヤマト政権の首長である大王が、自らの強大な権力や経済力を国内外に誇示するため。 | 2. 仏教が伝来したことで、死者を供養するための大規模な寺院建築の技術が導入されたため。 | 3. 中国の律令制度を模範とした国づくりが始まり、天皇の墓を規格化することが定められたため。 | 4. 朝鮮半島からの渡来人が、大陸での一般的な墓の形式である前方後円墳の技術を伝えたため。 |
|--|--|--|---|
- 問11 4世紀末から5世紀の山口県の古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 遣隋使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした | 2. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した | 3. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた | 4. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確認しようとした |
|--|---|--|--|
- 問12 古墳時代の中期から後期にかけて、大陸から伝わった技術や思想が当時の日本に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。 | 2. 大陸から青銅器の製作技術が伝わり、農耕の収穫を祝うための祭りの道具として普及した。 | 3. 律令国家の仕組みを確立するため、国家の成り立ちを記した日本書紀などの歴史書が作成された。 | 4. 日本独自の文字である「かな文字」が考案され、古今和歌集のような優れた文学作品が生まれた。 |
|---|--|---|---|
- 問13 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|----------|-------|
| 1. 八角墳 | 2. 方墳 | 3. 前方後円墳 | 4. 円墳 |
|--------|-------|----------|-------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 山の斜面などに作られた窯を使い、高温で蒸し焼きにした灰色の土器	須恵器は、朝鮮半島から伝わった「穴窯（あながま）」という設備を使い、酸素が少ない状態で高温調理（蒸し焼き）にするため、特有の灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器（はじき）は、古墳時代以前からの伝統的な手法である「野焼き」で作られていたため、赤褐色をしています。
問2	答え 3 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかっていることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問3	答え 1 百済・新羅	5世紀の東アジアでは、朝鮮半島北部の高句麗が勢力を拡大していました。これに対抗するために、半島の南部に位置した百済や新羅は倭（日本）と結びつきを強め、軍事的な衝突や技術・文化の交流が行われました。この国際関係は、当時の倭王が中国の南朝に朝貢した理由の一つにもなっています。
問4	答え 2 大王は、有力な豪族たちと連合し、彼らを従えることで政権を運営した。	ヤマト政権は当初、奈良盆地などの有力な勢力が結びついた「連合政権」としての性格が強いものでした。大王は、各地の豪族に「氏（うじ）」や「姓（かばね）」という地位を与える氏姓制度などを通じて、彼らを組織的に従えながら統治を進めていきました。
問5	答え 1 渡来人	4世紀から5世紀以降、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住んだ人々は、土器の製作、織物、灌漑などの技術とともに、それまで日本にはなかった文字（漢字）や、精神的な教えである仏教をもたらしました。彼らはその知識や技術を活かし、古代国家の形成において重要な役割を果たしました。
問6	答え 3 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大將軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問7	答え 4 ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと	遠く離れた埼玉県（稲荷山古墳）と熊本県（江田船山古墳）の両方から、同一の首長（ワカタケル大王）に仕えていたことを示す遺物が見つかったことは、当時のヤマト政権の権威や支配体制が、近畿地方を中心に九州から関東にまで広く浸透していたことを示しています。これは、日本列島における統一国家形成の過程を理解する上で非常に重要な事実です。
問8	答え 1 須恵器	渡来人は日常生活に密着した技術も多く伝播させました。それまで日本で作られていた土器よりも高い温度で焼成する技術や、ろくろを使用する技法が伝わったことで、より実用的で耐久性の高い器が生産されるようになりました。
問9	答え 3 大王	5世紀後半のヤマト王権（大和朝廷）の首長は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀には、「ワカタケル大王」などの銘文が刻まれており、近畿地方を中心とするヤマト王権の支配が、既に関東から九州まで及んでいたことを示す重要な歴史的証拠となっています。
問10	答え 1 ヤマト政権の首長である大王が、自らの強大な権力や経済力を国内外に誇示するため。	古墳の大きさは、そこに葬られた人物の権力や、動員できた労働力の規模を象徴しています。三重の濠を持つほど巨大な大仙古墳のような古墳が造られたことは、ヤマト政権の首長（大王）が近畿地方の有力豪族をまとめ上げ、強力な支配体制を築いていたことを裏付けています。なお、仏教伝来や律令制度の導入は、これよりも後の時代のことです。
問11	答え 4 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。
問12	答え 1 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。	渡来人によってもたらされた技術は多岐にわたります。実生活では、灰色の硬い土器である「須恵器」が作られるようになり、精神面や政治面では、国家の統治原理にもつながる「儒教」や、後に鎮護国家の思想へと発展する「仏教」が伝えられました。他の選択肢にある「かな文字」や「古今和歌集」は平安時代、「青銅器の祭祀化」は主に弥生時代、「日本書紀」の完成は奈良時代の出来事であり、時期や内容が異なります。
問13	答え 3 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。